

塩竈市立病院事業調査審議会

会 議 録

(令和5年6月8日)

塩 竈 市 立 病 院

塩竈市立病院新改革プラン評価委員会

日 時 令和5年6月8日（金）18:30～

場 所 塩竈市立病院3階 会議室

次 第

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 議 事 (1) 経営強化プラン策定に向けた検討

① 当院の果たすべき役割・機能に係る数値目標について

② 収支の見通しについて

③ 経営形態の見直しについて

④ 経営強化プランの実施状況の点検・評価・公表

(2) その他

策定スケジュール

4. その他

5. 閉 会

【出席者】

《委員（8名）》

本郷道夫（東北大学名誉教授）
赤石隆（宮城県塩釜医師会会長）
大井嗣和（宮城県塩釜医師会副会長）
遠藤圭（宮城県保健福祉部参事兼医療政策課長）
西條尚男（宮城県仙台保健福祉事務所保健医療監・塩釜保健所所長）
中嶋満枝（市民代表）
千葉幸太郎（塩竈市副市長）
福原賢治（塩竈市立病院事業管理者）

《欠席委員（2名）》

佐藤賢一（東北医科薬科大学病院 病院長）
小野憲幸（市民代表）

《事務局など》

真野浩（院長代行）
佐藤正幸（副院長兼地域医療連携センター長）
蜂谷真紀（看護部長兼地域医療連携センター副センター長）
鈴木康弘（事務部長）
平塚博之（経営改革室長兼業務課長）
庄司晃（医事課長）
堀江佳弘（業務課総務係長）
高橋茂仁（経営改革室係長兼業務課経理係長）
渡辺美香（経営改革室主査兼業務課経理係主査）

《傍聴者》 13名

《報道》 1名

1. 開会

ただいまから、塩竈市立病院事業調査審議会を開催いたします。

2. 会長挨拶

○本郷会長（開会あいさつ）

皆様にお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。今日は第4回塩竈市立病院事業調査審議会となっておりますが、この会の目的が総務省から発出された公立病院経営強化ガイドラインで示す内容で計画を策定していくという事になります。このガイドラインで何を求められているのかを念頭におきながら審議を進めていただきたいと思います。

昨今、公立病院に限らず病院医療関係で様々な問題が出ております。一番心配なのはマイナンバーカードと保険証の一体化で本当に混乱なく使えるのだろうかという事と、後期高齢者の医療費負担割合が増える事で受診控えが起きて、違う混乱が生じないかという事が心配されます。また、病院経営としてはこの半年ぐらいの物価上昇が保険診療で賄えない様々な経費に影響を及ぼしてくるであろうし、特に病院として一番顕著な問題は給食材料費について、大変な思いをしているだろうと思います。

そういった中で、問題を抱えながら公立病院をどのように改革を進めていくのかですが、この改革の根底の一つには、ようやく5類感染症になった新型コロナ感染症であり、新興感染症が発生した時に、公立病院がどこまで機能しなければいけないのかという事があります。あまりにも合併、淘汰をし過ぎると新興感染症に対する対応が難しくなってくる事も踏まえて、今回のガイドラインも、極端な合併統合の方向から少し舵を切ってきたと感じます。

そういった全体のガイドラインの流れ、社会情勢の流れに対し塩竈市立病院がお示しします経営強化プランの策定を進めておりますので、委員方の色々なご意見をいただきたいと思います。

3. 議事

(1) 経営強化プラン策定に向けた検討

① 当院の果たすべき役割・機能に係る数値目標について

レジメに基づき事務局より説明。

○本郷会長

ここまでについて、委員の皆様からご意見等ございますか。

○赤石委員

10ページの一般会計繰出金について基準を教えてください。

○事務局（事務部長）

はい、答えさせていただきます。病院に対する繰出しにつきましては、総務省から繰出基準が通知されています。例えば救急にかかる経費で、あるいは施設や医療機器を整備した際の企業債元利償還金の2分の1を一般会計が負担するという基準があり、いわゆる基準内繰入としています。こちらにつきましては、一般会計に国から交付税があります。それから政策的医療にかかる、いわゆる基準外の繰出金と言う形で市と病院事業で独自に取り決めて、病院の方では小児医療にかかる経費と在宅医療にかかる経費を一般会計が負担するものです。

○本郷会長

はい。私から伺いたいのですが、在宅医療に関して塩竈市在住の患者さんに限らないと思うのですが、塩竈市が負担して運営する事についてどう切り分けるのか。

○事務局（事務部長）

これまでも、今回お示しするプランに示しているものも塩竈市の負担となっており、当院で診ている、市外の患者さんにかかった費用についても繰り出していただいています。

○本郷会長

そこに対して、近隣市町の患者さんの負担や補助はどちらからかあるのですか。

○事務局（事務部長）

塩竈市からしか受けていません。

○本郷会長

大変割に合わないと感じますけれども。

それと、具体的な取り組みとして救急を断らないと記載してあるが、夜間の対応について働き方改革が進んでいく中でどのように現場で取り扱っていくのか伺いたい。

○福原委員

私からお答えします。8ページに記載していますが、平日日中の救急搬送は原則として断らないとしました。これは働き方改革の中で、当直時間帯は宿日直許可を取得していますので、原則は救急を受けられないが、かかりつけ患者には対応するという内容にしており、やむを得ないかなと思っています。

○本郷会長

患者サービスと働き方改革にも矛盾するところで、非常に難しいところですが工夫していただきたいと思います。

現在は新型コロナウイルス感染症の拡大で公開セミナーを実施していないと思いますが、コロナ感染症拡大の前にはどのくらいの回数を開催していましたか。

○事務局（事務部長）

多い年で年間5回という時期もございまして、その後、年間に4回か3回の実施をしてございました。コロナで開催できなくなっているというのが実情です。

○本郷会長

いつ頃から再開すると考えていますか。回答が難しいとは思いますが。

○福原委員

実は、連携の集いというものも4年間休止していましたが、これを今年再開したいと思っています。その後、市民向けのセミナーも開催を考えていきたいと思っています。

○本郷会長

他によろしいでしょうか。では次に移りたいと思います。②の収支の見通しについて事務局からの説明をお願いします。

② 収支の見通しについて

レジメに基づき事務局より説明。

○本郷会長

収支の見通し関連の説明についてご質問ありますでしょうか。

経費の削減について、薬品費の抑制でジェネリック95%になっていますが、医師がこの薬品を使いたいと申請すると全部採用されますが、新規採用の抑制等を検討していますか。

○福原委員

以前は1種類を新規採用したら既存の1種類を採用からは外すという方法をとっていました。ただ、今は紹介患者や転院患者が増えてきたので、どうしても薬の変更ができないという事が起こっています。それで一時的に採用薬品の種類が増えてきているという状況にあります。

これは将来的には見直しをしないといけないですが、現時点では採用としています。

○本郷会長

その辺も抑えておかないと、検討項目という程度にでも記載があるとよいのではないかと思います。

薬品はフォーミュラリーの考え方で、地域フォーミュラリーでコスト管理の方もですが、今後どの費用を削減できるかとなると、すごく少なくなっていると思います。あと、審議項目にはありませんが、最近の物価上昇に対する対応というのは何か考えていらっしゃいますか。光熱費、食材費も上昇していますが電気料金が一番ですね。

○事務局（事務部長）

光熱費が大きく値上がりしており、昨年度実績と比較して年間2,000万円近く上昇して

おります。以前、電力契約が自由になった際に業者を変えるという検討をしましたが、今では電力買い取り自体も難しくなって、費用削減にはならない状況となっています。

対応としては、こまめに職員が節電しながら、本当に地道に不要な照明を消す等といった形で取り組んでいる事が、光熱費削減の唯一の方策と考えています。

○本郷会長

電力会社を変えていたら逆に大変な事になっていましたね。そういう意味でも、経営の舵取りはすごく難しいと思います。

では、次に進みます。③経営形態の見直し、そして合わせて④経営強化プラン実施状況の点検・評価・公表を併せて事務局から一括で説明します。

③ 経営形態の見直しについて

④ 経営強化プランの実施状況の点検・評価・公表

レジメに基づき事務局より説明。

○本郷会長

経営形態と経営強化プランの実施状況の点検・評価・公表についての説明をいただきましたが、これについてご質問ありますでしょうか。

では、なければ全体を通して委員の皆様からそれぞれご意見等をお伺いしたいと思います。

○中嶋委員

はい。今回アンケートを実施したアンケートは無作為で、市立病院を利用していない方を含めている事なので、一番市民の気持ちが籠っているのではないかと思います。

それで、5ページの表6に今後どの項目に力を入れるべきかという問いに集約されていると思いますが、予算がないからすぐには実施できないとも思っています。一番一生懸命取り組まれている救急搬送患者受入れ態勢は引き続き頑張ってくださいという事。

あとは老朽化した施設の改修にすごく費用をかけて、感染対策に対応した施設にするというのは、やっぱり無理で限度があると思います。お金があったら寄付したいなと思いますが、そう

もいかないので、一般会計と協議しながら塩竈市だけじゃなくて地域を巻き込んでなんとか新しい環境になれば、前回もお話ししましたが、患者のクオリティも職員のクオリティも上がって、ますます上向きに経営が良くなるという印象を受けました。

○大井委員

私は建ててもいいと思う。全然違う話題ですが、新しくMRI装置を入れましたよね。骨盤の画像を撮ってみました。以前の方が見やすかったように感じます。前の画像の方が好きだったんですよ。まだ調整中ですか、それとも僕の見方がもう古いのかも知れませんが、前の方が見慣れている印象です。

○福原委員

以前の装置は2000年に導入したので、22年間使用した機種です。非常に古い機種ですが、その当時では最高機種でした。

○大井委員

私は1999年に国立病院を辞めてこちらに戻ってきましたが、それからずっと塩竈市立病院の画像を見ていますが、今回の画像の方が滑らかなのですね。

○福原委員

遥かに滑らかです。画像処理の仕方に変化があるので違和感を感じるのかも知れません。

○大井委員

もう一つ、未収金の問題ですが、当院では最近では外国籍の患者がおり診察してもお金がないと言って1,000円から2,000円しか払わないんですよ。

市立病院ではクレジット決済を導入しているのですか。

○事務局（事務部長）

昨年の7月からクレジット決済を導入していますが、利用率はそれほど高くないです。当院でも未収金の問題というのは大きな課題であります。

○大井委員

未収金はどのくらいですか？

○福原委員

200万円くらいですね。やはり、患者さんがお亡くなりになられたり現住所が分からずに回収ができないというケースがあります。ただし、しっかり支払いのお願いをして現在の未収金は200万円くらいとなっています。

○大井委員

取り立てに行っているのですか、職員が。

○福原委員

直接訪問はしませんが、お支払いについて案内を送付しています。

○大井委員

もう一つ、予防接種はやっぱり開業医に任せても良いのではないですか。例えば、肺炎球菌や最近だと子宮頸癌のワクチンなど。

○福原管理者

経営強化プランでも数値目標を掲げていますが、コロナ感染症ワクチンが年間1,000件程度ありました。今後どういう目標にするか、増やしていくのか、あるいは現状維持なのか非常に悩みました。資料で示します実績の令和2～4年というのは、いずれもコロナ禍での実績なので、通常の状態に戻った時にはおそらく件数が減るだろうと思います。個々に関しては、子宮頸癌ワクチンでは、当院は婦人科を週に一回しか診療していませんので、積極的に進めていく事は難しいだろうと思っています。

○赤石委員

経営形態ごとに特徴がある事は分かりましたが、市立病院はどの経営形態とするという方向性を決めていますか。

○福原委員

現在は、資料に記載している地方公営企業法全部適用となっています。この事については議会でも質問が出ますが、経営形態を見直す事によって経営が改善するのではないかという事を指摘されます。ただ、どの経営形態とする場合にも職員が非公務員になる時に、退職金を一時的に支払うために多額の費用が生じます。それから、経営形態を変えても施設、設備に係る費用は市が負担する事となります。この事から、経営形態を変えて経営が著しく改善したという病院がほとんどありません。そして、この地域に必要とされる医療機能が果たせるかどうかという保証が無いと言ったら極端ですが、市の意向が反映されにくくなるという事もあります。当院としては、地方公営企業法を全部適用した、公立病院としての経営形態を今後も継続していきたいと考えています。

○赤石委員

繰入金については、経営形態によって違いがありますか。あと、私から前回の審議会でも申し上げましたが、病院改修にかかる費用と新築建替えにかかる費用との比較が必要だとは思いますが、今の社会情勢のタイミングとしては感染に対応した構造に造り替えるとか、そういうタイミングではないかと私は思っています。千葉副市長も出席されて、恐らくそのような事も考えて、人事を行ったのではないかと推測します。この近辺の医療機関でそういう改築のできる医療機関はありません。市立病院しかないと私は考えます。以上です。

○本郷会長

先ほどの経営形態での話では、独立行政法人化したのは県南中核病院、指定管理者を採用したのは黒川病院と、今度、刈田総合病院です。指定管理になると、公務員ではないので人事は楽になると思いますが、施設は自治体が所有しているので、修理が簡単にはできない。経営形態が変わって迅速に対応できると思えば、反対にとっても面倒な手間となります。そういった両方の面があるので、それを踏まえてどの経営形態をとるのか考えなさいというのが総務省からのガイドラインとなっています。

○遠藤委員

これまで何回か出席させていただきまして、プラン策定にあたっては、現在、塩竈市立病院

が役割を担っているところを整理しながら、これまで見直しをされた点を踏まえていると感じております。一方で、今回の市民アンケートという事でご紹介いただきましたが、例えば5ページの今後の方向性については、病床数や病院の規模になりますと、やはり市民の方が求めるものは、設備や機能の揃っている事だと改めて感じながら拝見いたしました。実際には、病院間での連携と分担という時代でございますし、具体的な医療需要もまだ仙台医療圏では大きく減っていく時代ではありませんし、地域によっては減るところもある状況です。将来を見据えた需要予測が求められると思いますし、改めて住民の方々への様々な情報提供が必要である事と、私共も県立病院事業をもって、難しいと感じる点は多々ありますが、情報の発信が大切だと感じています。

○西條委員

まず、このプランを実現するためには、やはり人材がベースなのではないかなと思います。人数、質、とりわけ医師、看護師さんといったような方について募集されていると思います。それから、コメディカルの先生方あるいは医事に精通した事務職員といったような方々、豊富なスタッフが集まっているという事が大事でして、色々のご苦勞をなさっていると思います。将来に向けて、人材は宝でありますので、いかに塩竈市立病院に魅力を感じていただいて定着していただくかという方法がございましたらご教示いただければと思います。

○福原管理者

これはどの病院も大変苦勞しているのではないかと考えています。やはり当院も看護師が不足しているために入院患者に制限がかかってしまうという事が起こっています。それで追加の募集を定期的に行っているような状況です。今、看護師以外はほぼ充足していますので困っていないのですが、医師の高齢化も進んでいますので、今後はきちんと計画的に大学と連携しながら医師を派遣していただくという形で診療を維持していきたいと思います。

それからもう一つは、今回のこのアンケートで患者さんもしっかりとした療養環境を希望している事が表れていますが、やはり働く職員にとっても働きやすい環境を整えてあげるという事も非常に大事であると考えています。当院の場合は、平成に建て替えをせず令和になっていますので、建物自体を改善していかないと魅力的な病院としては映らないのかなという事も思っております。

○千葉委員

本市の重点課題の7つの項目の中の 하나가、市立病院の今後という事になっています。これまでも長年、いろいろ議論されてまいりましたし、地元医師会の皆様からもいろいろなお意見をいただいています。私も県職員時代には担当課にもいましたので、医療圏全体の中での塩竈市立病院の立ち位置を考えるという事も一つ視点としてはあります。一方で市民の皆さんからすると、目の前にある病院で助けてもらうのは当然だと思っていらっしゃると思います。財源の話は置いておき、最高の医療、最高のホスピタリティを提供して欲しいという思いは当然です。そういった中で、今の医療業界の状況やかかりつけ医がいて病院があるという受診のあるべき姿をご理解いただくような努力を行政として怠ってきたという反省もあります。公開セミナーをようやく再開できるという事もありますし、開設者として十分な情報を市民の皆様を提供する責務があると思っております。

それから、市立病院をご利用いただくにあたって、医師会の皆様の病院及びクリニックとの連携なくしては運営できませんので、そういった面で管理者以下スタッフの皆さんには大分努力していただいていると、他の公立病院を見てきた感覚の中でもそう思っています。

一方で、例えば現在地で建替えるというのは、皆様ご承知のように非常に現実的ではないので、どこに移転するのかという事になります。そうしますと、本市は狭い土地柄ですので、非常に難しい判断が求められると思っております。例えば、小中学校も老朽化してございます。そういったものも含めながら、全体の中でいつ皆様にお示しできるのかというのは、現在市役所の内部で検討段階という状況です。しかし、一方で市立病院は非常に老朽化しておりますので管理者がお話しされたように、スタッフを集めるにも施設的に魅力があって働きやすい環境があって初めて就職したいと思ってもらえる、そういったものは現実にあると思います。また、患者の皆様、病院クリニックさんからも安心して紹介いただけるといった環境が求められている事を医師会長も仰っておりますので、そこは肝に命じながらどこまでできるかという事を考えたいと思います。

それと今、GOサインを出したとしても完成までには時間がかかりますので、そういった意味では残されている時間は多くはないという事もよく認識していますので、皆様のご意見とご助言いただきながら真剣に検討させていただきます。

○本郷会長

そうすると、検討項目に上がったというところまでは。

○千葉委員

それは既に市長も公言していますので。

○本郷会長

順調に進むのを期待しています。

先ほど発言しましたが、在宅あるいはケアマネの活躍により在宅医療を中心とした患者さんの動きは塩竈市だけでなく他の市町の住民が全部関わっています。しかし、今の時点では病院の運営は塩竈市だけが経済的な支援をしています。県が動けば市町の範囲を超えて巻き込む事は可能ですよね。そういうところから活動を進めていき、近隣市町の協力が少しずつ引き出せるなどと簡単には言いませんが、何か実績作りをする事がこれから必要であるのかなと思うのですがどうでしょう。

○福原委員

仰るとおりだと思っています。これは病院全体の支援を近隣市町が負担する事は難しいと思いますが、一部の医療機能に関しての応援をもらう事は可能だと思っています。そして、そこにはやはり県の後押しが必要だと思っています。今回の経営強化プランガイドラインの中では、県がしっかりと後押しするように明示されてありますので、ぜひこの部分をしっかりと進めていただければありがたいと思っています。

○本郷会長

他に追加でご質問ございませんか。

○赤石委員

私は塩竈第三小学校、第三中学校の出身ですが、私が在学していた時と同じ校舎が建っていて、耐震のための補強をしてあります。そう考えると、なかなか病院を建てるという事は難しいかも知れませんが、タイミングっていうのはあってですね、やはりこのコロナ禍が落ち着いたところで、それなりの構造で病院を造るという時期は今しかないのではないかなと考えております。追加させていただきます。よろしく申し上げます。

○本郷会長

できるだけそういう方向で話が進むとありがたいですね。

他にご質問よろしいでしょうか。では、福原先生からもご意見をどうぞ。

○福原委員

次の計画期間、今後5年間の経営強化プランの策定にあたって非常に悩んでおります。というのは、5年前と比較してこの5年間の変化があまりにも大きかったという事があります。新型コロナウイルス感染症の蔓延がありましたし、それから近隣に大きな大学病院もできました。それから当院においても医療機能を大きく変えました。療養病棟を廃止して回復期を中心に、在宅復帰を目指すような、高齢者に寄り添う医療という方針に大きく変化しました。今後5年間で社会がどう変化していくかという事はなかなか掴みづらいものです。その中で、どのように経営強化プランを策定していくかという事で大変悩んでおります。皆さんからいろいろなご意見をお伺いして、より良いものにしたいと考えております。

○本郷会長

この時代の情勢がどんどん変わっていくので、5年計画といっても5年目に最初のコストとは全然違った状況になる事もあり得る時代だと思います。

では、今回の審議に基いて市立病院経営強化プランの作成を進めるという事にしてよろしいでしょうか？

～出席委員 全員了承～

○本郷会長

それでは議事、その他として事務局から策定スケジュールの報告があります。

(2) その他

策定スケジュール

レジメに基づき事務局より説明。

○本郷会長

それでは今の議論を事務局で取りまとめて、次回は審議会の答申案についての審議という事になります。

4. 閉会

これで、予定されていた審議のすべてを終えます。

以 上

閉会 午後7時30分